

学校教育目標との関連

知	かしこく	意欲的に学ぶ子	よく考え表現する子	
徳	あたたかく	仲間と共に成長する子	全ての命を大切にする子	重点目標
体	つよく	健康でたくましい子	目標をもってやりぬく子	

児童の実態

豊かな心で、あたたかい人間関係を築ける子の育成のために、個性や自分の良さを知り、考えを共有したり、安心して表出したりできる環境づくりが欠かせない。
教育目標「あたたかく」の具現化に向けて、Q-Uを基に実態を調査した。

Q-U (楽しい学校生活を送るためのアンケート) 集計結果より

「Q-U」は、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」「居心地の良いクラスにするためのアンケート」という、2つの調査項目から構成されている。
5月に実施したアンケート結果から、友達関係や学級の雰囲気の項目では満足度が高い傾向にあるが、学習意欲、承認得点、侵害得点は、やや不満足と感じている児童が3～4割程度いることが分かった。
これらの項目の満足度を高めていく取組を行うことにより、児童が安心して自分の個性や考えを表現でき、目標に向かってやりぬく力を高めることができると考えた。

1 すべての授業において年間を通して取り組む授業改善の視点

～これまでの校内研究の取り組みを生かして～

(1) 問題解決的な学習 (H26年度校内研究)

児童全員が、一単位時間の授業を通して学習に対する充実感や達成感を味わうことのできる授業を目指す。そのために、児童の実態に適応する明確な課題と活動内容を設定する。

〈具体的な実践例〉

- ・学習問題を児童に考えさせたり、めあてに対して必然性のある活動を取り入れたりする。児童主体の授業作りを実践する。
- ・単元の学習計画表や自分のノートを活用させる習慣を定着させる。見通しをもって自ら学習に取り組んだり、既習事項を活用しながら解決したりできるようにする。
- ・学習問題を追究する段階では、ペアや小グループでの活動を取り入れることで、自分と友達の考えの相違点に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができるようにする。
- ・一単位時間の終末には、めあてに対する振り返りの時間を確保し、自分が学習したことやできるようになったことを実感させることで、充実感や達成感を味わえるようにする。

(2) インクルーシブ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習 (H27・28年度校内研究)

全ての児童にとって「分かる・できる」「楽しい」授業を目指す。そのために、児童理解を徹底し、全体指導の中で一人一人に応じた支援をしていくことを常に意識して授業を実践していく。

〈インクルーシブの視点〉

学習意欲の向上の工夫 (学習上の困難を克服するための配慮) 自信を持たせる工夫 (心理面の配慮)

〈本校のユニバーサルデザインの定義〉

焦点化…授業のねらいに沿っためあてと活動を設定し、児童に思考させる視点を明確にすることで、ねらいを達成できるようにする。
視覚化…資料や具体物を活用したり言葉を見える化したりすることで、確かな理解のもとで思考させられるようにする。
共有化…児童同士の関わり合いを通して共通点や相違点に気付かせ、自分の考えを深められるようにする。

〈ユニバーサルデザインの手立て〉

- ・環境の工夫…落ち着いた教室環境、見やすい掲示物など
- ・活動の工夫…効果的なペア、グループ学習など
- ・教材の工夫…ヒントカード、視覚教材の効果的活用など
- ・評価の工夫…児童に対する明確な到達目標の提示、評価方法の明確化など
- ・情報伝達の工夫…構造的な板書、ハンドサインなど

2 校内研究を主軸とした授業改善推進プラン

研究主題

「豊かな心で、あたたかい人間関係を築ける子の育成」
～互いの良さを認め合える ICT を活用した授業づくり～

主題設定の理由

本校では、生きる力として学習指導要領に示された「未来を切り拓くために必要な資質・能力」を教育目標(つよく・かしこく・あたたかく)とし、全ての教育活動において子供の主体性を生かした学校づくりを進めている。

本年度は、昨年度までの研究成果を踏まえ、教育目標「あたたかく」(仲間と共に成長する子・全ての命を大切にする子)を重点目標とするとともに、教育目標「あたたかく」のめざす児童の姿を研究主題とし、その具現化を図る。

児童一人一人が問題意識をもち、「考えたい」「伝えたい」という思いをもたせる授業を行っていくことが、教育目標である「仲間と共に成長する子の育成」に繋がると考え、研究主題を『豊かな心で、あたたかい人間関係を築ける子の育成』とした。

研究主題に迫っていくためには、協働的に学べる環境を整える必要がある。今年度は『楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U』を活用し、学級の状態の把握、二次的支援(予防的支援)を必要としている児童の抽出及び支援策の検討を行った。アンケート結果から、「自分の意見を、自信をもって表現すること」に課題があることが分かった(学習意欲・承認得点)。児童が自信をもつためには、個別最適な学習や協働的な学習を進めることが効果的である。また、その達成をめざす上で、ICTの活用は欠かせない。そこで、副主題を『互いの良さを認め合える ICT を活用した授業づくり』と設定した。ICTの利点を授業づくりに生かす指導方法・教材の工夫を行うことで『豊かな心で、あたたかい人間関係を築ける子の育成』を目指していく。

研究仮説

学習で ICT を活用して個別最適な学びや協働的な学びができる環境を整えることで、互いの良さを認め合いながら豊かな心が育まれ、「仲間と共に成長する児童」が育つであろう。

目指す児童像

低学年	中学年	高学年	特別支援
学ぶことに興味や関心をもち、 友達の意見を聞こうとする児童	自分に合った方法を選んで考えを 表現し、他者のよさに目を向けら れる児童	自分で学習を調整し、協働的に 考え学びを深めようとする児童	教員との信頼関係を基盤とし、周 囲の人とのやり取りに期待感をも つ児童

研究内容

児童の気付きや見通し等の思考を共有するための取組として、以下の2つを中心に研究を進める。

(1) 互いの良さや認め合える授業づくりにつながる ICT の活用

ICTを最大限活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を達成する。

〈個別最適な学び〉

- ・指導の個別化…支援の必要な子供により重点的な指導を行ったり、一人一人の特性や学習進度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行ったりする。
- ・学習の個性化…探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、一人一人に応じた学習活動に取り組み機会を提供することで、児童自身の学習が最適となるよう調整する

〈協働的な学び〉

- ・ICTの活用により、一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る。

(2) 互いの良さを認め合える学級集団づくりのための取組

〈構成的グループエンカウンター〉

構成的グループエンカウンターとは、集団学習体験を通して、自己発見による行動の変容と人間的な自己成長をねらい、本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法とされている。学習活動で取り扱う課題には、自己理解、他者理解、自己主張、自己受容、信頼体験、感受性の促進の6つをねらいとした活動があり、このねらいを達成させることで学級集団を深めていくことができる。そこで、これらの活動を学級活動や、日頃の学級経営の中で意図的に計画的に取り入れ、互いの良さを認め合える学級集団づくりを実現させていく。